

**平成20年度
愛知高校 薬学部推薦入学者対象 薬学入門講座 報告書
愛知学院大学 薬学部 私大助成小委員会 平成21年2月20日**

H20年度 愛知高校 薬学部推薦入学者対象 薬学入門講座 取組担当者
愛知高校 担当者
松本 正孝 校長、山本 英明 教務部長

愛知学院大学 薬学部 担当者
佐々木 琢磨 薬学部長、櫛 彰 教務主任

私大助成小委員会
村木 克彦 (委員長)、田中 基裕、古野 忠秀、武田 良文、山本 浩充

Keywords:

はじめに

愛知学院大学薬学部では、推薦入学者が、できるだけ薬学部の学習にスムーズに移行できるようサポートする取組を平成20年度から、学内委員会の私大助成小委員会を中心に実施することとなった。この取組は高大接続事業の一環であり、今後、益々重要になってくると考えられる。とくに昨今の大学入学者の学力低下は大学の存亡にも関わる大きな問題であり、このような高大接続事業による早期対策は、学生の基礎学力の向上に資する可能性が高く、学力低下問題に対するひとつの解決策であると考えている。取組初年度の実施結果を分析することで今後の取組の参考するのが本報告書の目的である。

方法

講義の最終日に参加者10名に無記名アンケート（添付資料参照）を実施し、その分析を行った（回収率100%）。講座への出席状況についても分析した。

結果と考察

1. 講座への出席状況について

週平均2-3回、3週にわたり計8回開講された講座であったが、60%の参加学生が皆出席であった。冬期の比較的

| 出席状況 | 人数 |
|------|----|
| 欠席なし | 6名 |
| 1回欠席 | 3名 |
| 2回欠席 | 1名 |

体調管理が難しい季節に実施した取組であったこと、高校への連絡が年末年始を挟んだため遅れたこと、などが原因で若干出席率が低かったと考えられる。参加学生からも実施の周知が遅かったため予定変更が大変であったなどのコメントが寄せられており、今後の実施の際には、少なくとも1ヶ月程度の余裕を持って連絡する必要がある。

2. アンケート結果について

講座への関心度については（「興味深かったかどうか」、2つまでの複数回答可）、すべての参加者が肯定的な回答であった。またすべての参加学生が、本講座が大学生活に有用であると考えていた。他の推薦入学者の参加については、90%学生が肯定的な回答であり、実施形態の問題はあるが、今後、推薦入学者全員に入学前教育としての実施を考えていく必要がある。

*Corresponding author.

村木 克彦

Tel: +81 52 757 6788; Fax: +81 52 757 6799.

*E-mail address: kmuraki@dpc.agu.ac.jp

| 興味を持った講座名 | 人数(欠席者数) |
|--------------------------|----------|
| 細胞の生死を調べよう | 4(2) |
| 先輩との交流 | 3(0) |
| 学びの転換、科学的・批判的思考とディスカッション | 2(0) |
| この実験って、物理？化学？生物？ | 1(2) |
| 新しくすりをつくる方法：有機化学の視点から | 6(0) |
| 目で見て理解する物理化学と薬学のつながり | 3(0) |

欠席者の存在から判断が難しいが、講座内容への興味については、分散する傾向にあった。高等学校での物理選択者は少なかったが（聞き取り調査）、物理的内容の講座にも興味を示す学生が少なくなかった。しかし馴染みの深い生物や化学に比較的強い興味をもつ傾向があると推察される。

取り上げてほしい内容に関しては（自由記述）、

- ・これぞ薬学部的な本格的な実験
- ・炎色反応
- ・大学で実際行われている講義
- ・大学の部活やサークル内容
- ・実験の量をふやしてほしい（3名）

などが挙げられており、理解できるかどうかの問題は残るが、講義（座学）よりも実験を主体とした講座が望ましいと考えていることがはっきりと確認できた。クラブ・サークル等の紹介については、入学以降、頻繁に紹介されるので本講座で取り上げる必要はないが、オープンキャンパスで使用されるクラブ紹介ポスターの展示などを考慮してもよいと思われる。大学で行われている講義を取り上げてほしいという希望に関しては、授業・実習の開講時期であれば、聴講生として自由に講義や実習を聴講できる期間を設けてもよいかもしれない。在校生に対しても、新入生が聴講しているとなれば、講義に対する緊張感も生まれる可能性があり、今後、実施を検討すべきである。

薬学入門講座全体に対する意見としては（自由記述）、

- ・新鮮な感じで、どれも楽しかった
- ・まだまだ実験をやりたいと思った
- ・新しいことばかりで、とても興味をもった
- ・大学入学に際して、今何をすべきかわかり、とても充実していた

- ・興味をもてる講義ばかりであった
- ・予定をもっとはやく知らせてほしかった
- ・大学の雰囲気を先取りできてよかった
- ・難しすぎず楽しかった
- ・午前中の実施が望ましい（2）
- ・使ったことのないものを使ってよかった（2）
- ・もっと勉強しなくてはと思った（2）
- ・高校でできなかった実験ができて楽しかった

などが寄せられており、アンケート結果から推察すると、学生の満足度は極めて高かったと思われる。また一部の学生ではあるが、大学での勉学へのモチベーション喚起にも効果があったと判断でき、本取組が入学前教育として意義があったと考えられる。実施の連絡や実施計画に関する要望も寄せられたが、この点については今後、改善を要する課題であり、是非検討したい。

まとめ

学習の面で新入生が大学生活へスムーズに移行できるようサポートする目的で、本年度から実施した薬学入門講座は、参加学生にとって極めて満足度の高いものであった。しかし、実施の連絡や実施時期、実施スケジュールなどには検討すべき点があり、今後、改善が必要である。また講座内容に関しても、大学での学習に対するモチベーション向上・維持のため、新入生がより積極的・主体的に参加するプログラムを考える必要があり、これが本取組にとってもっとも重要な点であると考えられる。

謝辞

本取組にご協力頂きました愛知高等学校教員各位、愛知学院大学薬学部教職員各位に深謝いたします。また、交流会に参加して頂きました愛知高等学校出身の薬学部生に感謝いたします。さらに、本講座に参加され、協力された愛知高校生に深謝いたします。

資料編

愛知高校 薬学部推薦入学者対象 薬学入門講座 概要

期間：平成21年1月29日（木）～平成21年2月17日（火）

目的：愛知高校 薬学部推薦入学者支援：薬学の紹介と大学での学習へのスムーズな移行

実施場所：愛知学院大学 楠元キャンパス 薬学部 薬学部棟2階中講義室（202）

スケジュール（各自、午後1：30に実施場所に集合してください）

・1/29（木）：午後1：45～

中講義室：ようこそ薬学部へ（佐々木学部長）

薬学紹介（樫教務主任）：カリキュラム概要

自己紹介（担当教員・学生）

薬学部棟・図書館等見学（村木）

・2/2（月）～：午後1：45～3：45 薬学入門講座：中講義室（202）

担当教員：村木、田中、武田、古野、山本、その他

2/2（月）、2/3（火）：「細胞の生死を調べよう」（担当 田中）

2/4（水）：「先輩との交流」（薬学部所属 愛知高校出身者との交流、大会議室）

2/9（月）：「学びの転換、科学的・批判的思考とディスカッション」（担当 村木）

2/10（火）：「この実験って、物理？化学？生物？」（担当 古野）

2/16（月）：「新しいくすりをつくる方法：有機化学の視点から」（担当 武田）

2/17（火）：「目で見て理解する物理化学と薬学のつながり」（担当 山本）

2/4（水）開催の「先輩との交流」は午後2：00より薬学部棟1階大会議室で実施します。

新入生の準備物

・筆記用具、ノート

服装は、自由です（白衣が必要な場合には、貸与します）。

配布物

・名札、資料等

連絡先：薬学部事務室：TEL:052-757-6762、FAX:052-757-6799

H20年度 薬学入門講座 アンケート（該当するものに○をつけるか、記述してください）

1. 今回の薬学入門講座は、興味深かったですか
a. はい b. いいえ c. ふつう d. わからない
2. 一番興味深かった講座は何ですか（2つ挙げてください）
a. 「細胞の生死を調べよう」, b 「先輩との交流」, c 「学びの転換、科学的・批判的思考とディスカッション」, d 「この実験って、物理？化学？生物？」, e 「新しいくすりをつくる方法：有機化学の視点から」, f 「目で見て理解する物理化学と薬学のつながり」（担当山本）
3. 他の推薦入学者にも参加してほしいですか
a. はい b. いいえ c. わからない
4. 大学生活を行うに当たり参考になりましたか
a. はい b. いいえ c. わからない
5. 取り上げてほしい内容を挙げてください
6. 講座に対する率直な感想を書いてください。

今後の参考にさせていただきます。ご協力ありがとうございました。